

じめ防止に向けた活動を説明した。

せたな町立北檜山中学校の生徒は、1人1台端末上のチーム機能を活用し、家でも相談できる体制を整えていることを紹介し、他校の児童は「家庭でも相談できる体制が整っているの

函館中部高の就業体験受入

将来を考える契機に

道教育大附属函館中 座談会も

【函館発】道教育大学附属函館中学校（中村吉秀校長）は12日から2日間、函館中部高校（佐竹卓校長）の生徒によるインターシップを受け入れた。進路座談会では、附属函館中の2年生が受験勉強や進路の悩みなどを相談し写真11。

高校生は自身の経験を踏まえてアドバイスするなど、互いに将来を考える契機とした。

インターシップは道教委の事業の一環として実施しているもの。高校生が教員の職務や学校教育の内容、子どもと触れ合う楽しさなどについて理解を深めることで、教職の魅力を感じてもらおうとともに、教員養成大学の志望につながることを目的としている。

は良い取組だと思おう」と感想を伝えた。

協議後、児童生徒は自校の活動の参考にするとともに、いじめ防止に向け、今後取り入れたい活動を整理し、檜山局の佐藤淳高校教育指導班主査が助言。「いじめはどんなことがあって

附属函館中では前年度に引き続き、高校生の受け入れを実施。函館中部高の1・2年生5人が参加した。

5人は附属函館中の卒業生。初日は、授業見学や黒田諭副校長による講話の聴講、授業準備の手伝い、教員へのインタビューを通して、高校生が設定している研究テーマに基づいて実践的な経験を積んだ。

2日目は、次年度に受験を控えている中学2年生101人を対象に、各学級で進路座談会を実施。

高校生は、函館中部高の学校生活をプレゼンテーション。部活動の入部率が8、9割で文武両道であることや、制服や髪の色指定がない自由な校風をアピールした上で「自分自身

も許されない」という意識が各校で根付いており、誰かに相談できる体制を整えている点が素晴らしいなど評価し「いじめのない明るい学校生活を続けてほしい」と述べ、取組の継続を求めた。

でルールの一線を考える必要があるため、責任感が身に付くのも魅力の一つ」と話した。

高校生を交えたグループ交流で中学生は学習面の不安や受験勉強、進路選択の悩みを相談。高校生は1授業時間が65分に設定されていることを説明し「最初は大変だったけど、慣れたらあつという間。日々の授業を着実に復習していくことが大切」とアドバイス。進

親子で雪像を制作 今月中旬から開始

網走市教委

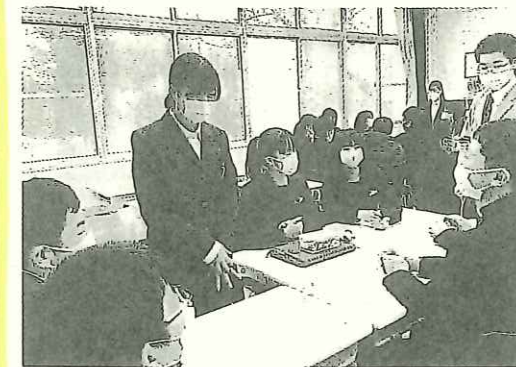
【網走発】網走市教委は12月中旬から来年2月上旬にかけて、オホーツク文化交流センターの中心で雪像づくりを実施する。雪像づくりは50年以上のベテラン講師の指導のもと、親子で雪像を制作する。雪像づくり終了後には展示期間を設け

路選択については「高校のホームページを確認するなど、校風などを感じてみる」と良いなど伝えた。

また、部活動や恋愛、休み時間の様子などの質問が上がり、互いに和気あふましいとした雰囲気でも交流を深めた。

んは「これまで教育実習生との交流はあったが、高校生と触れ合う機会は少なく、年齢の近い先輩に相談できるのは良い機会だった。また進路は決定していないが函館中部高校も選択肢の一つになった」と笑顔を見せた。

附属函館中の栗栖由羽さん(2年)は



「授業参観や教員との交流で教員志願に向けた実践的な経験を積むことができた。中学生との交流は高校生になった立場からの視点でアドバイスできる良い機会だった」と振り返った。

日程はつぎのとおり。

▽雪像づくり①(粘土で模様づくり) 11月17日(土) 午前9時30分

▽雪像づくり②(雪で土台を作ろう) 11月21日(土) 午前9時30分

▽雪像づくり③(形づくり) 11月28日(土) 午前9時30分

▽雪像づくり④(仕上げ) 12月4日(土) 午前9時30分

苦商風だより7号

苦前商高

【留萌発】苫前商業高校(佐藤恵一校長)は、苦商風だより第7号を発行した。苦力フェヤやSDGs講話、防犯・薬物講話などの様子を紹介している。